

<認知症対応型共同生活介護用>
<小規模多機能型居宅介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	8
1. 理念の共有	1
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	2
5. 人材の育成と支援	0
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	5
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	6
1. その人らしい暮らしの支援	4
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	20

事業所番号	1493400186
法人名	有限会社 優心会
事業所名	六丁目のつどい
訪問調査日	2014年8月26日
評価確定日	2014年10月20日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について

外部評価は20項目です。
「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

○記入方法

[取り組みの事実]
ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
[次ステップに向けて期待したい内容]
次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
家 族 = 家族に限定しています。
運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

平成26年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1493400186	事業の開始年月日	平成21年6月1日
		指定年月日	平成21年6月1日
法人名	有限会社 優心会		
事業所名	六丁目のつどい		
所在地	(246-0031) 横浜市瀬谷区瀬谷6丁目16-11		
サービス種別 定員等	☒ 小規模多機能型居宅介護	登録定員	24 名
		通い定員	12 名
	☐ 認知症対応型共同生活介護	宿泊定員	4 名
		定員 計	名
		ユニット数	ユニット
自己評価作成日	平成26年8月1日	評価結果 市町村受理日	平成26年11月13日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・在宅支援 ・その人らしさのある生活 地域、家族とのつながり	・
--------------------------------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 S Y ビル2F		
訪問調査日	平成26年8月26日	評価機関 評価決定日	平成26年10月20日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

①この事業所は、有限会社 優心会の経営です。本法人は、この小規模多機能型居宅介護事業所の他に、グループホームを2カ所及び介護タクシー事業を運営しています。この事業所は、相鉄線瀬谷駅から徒歩15分程度の厚木街道から200m程度内に入った住宅地にあり、民家を改装した平屋の建物で、明るく、おしゃれな建物です。リビングは、こじんまりと家庭的な雰囲気、事務所の仕切りはガラス張りにして、開放感をもたらすと共に、リビング全体が、事務所の中から見渡せる工夫がされています。

②この事業所のモットーとして、「利用者の意思を尊重し、今までと変わらぬ自立した在宅支援」を目指して、理念を事務所内に掲示すると共に、全職員は名札に入れて常時し、絶えず理念を意識しながら介護ケアに向き合うようにしています。通いのサービスの場合の送迎時間は、利用者の希望を尊重して、訪問サービスに合わせて柔軟な対応に努めています。昼過ぎに帰宅される方や、夕方に来られる利用者もあり、柔軟に対応しています。独居の利用者に対しては、夏場は、夜間の熱中症対策として、帰宅時には麦茶入りのポットを持ち帰ってもらい、麦茶入りのグラスを自宅のテーブルに置いて、夜飲むよう伝える等、細やかな配慮もしています。

③地域密着型サービスとして、地域との関係作りも重要視しています。地元自治会に加入し、運営推進会議の会場として自治会館を使わせてもらっています。自治会の一員として、ゴミ当番・公園の掃除・防災訓練・行事へ参加し、日頃より近隣住民への散歩の際の挨拶なども励行しています。年2回の避難訓練では、近隣住民に積極的に参加してもらい、協力を頂いています。また、近くの住民の方にボランティアとして、書道と絵の指導をお願いしています。管理者は、事業所の認知度の向上に尽力しながらも、更なる地域への周知を進める為に、「六丁目のつどいの利用方法」のチラシを作り、会合の際、配布して知名度の向上に努めています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	9 ～ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	14 ～ 20
V アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	六丁目のつどい
ユニット名	小規模多機能型居宅介護

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	その人の能力を発揮し、自立支援をはかりつつ、地域の方々との交流を深めながらその人らしい在宅生活が継続できるように支援する理念掲示。	「その人の能力を発揮し、自立支援をはかりつつ、地域の方々との交流を深めながらその人らしい在宅生活が継続できるよう支援」との理念を事務所に掲示し、各職員の名札にも常時し、絶えず理念を意識するようにしています。自宅では、車椅子の生活だった利用者が、「通い」を始めてから歩行が出来るようになった例もあります。	今後の継続	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会加入　ごみ当番　老人会出席　公園掃除 ホーム開放　見学歓迎　ボランティア受け入れ 地域の催し物参加（防災訓練等） 夏祭り夜店出店（ポテト・ナゲット） 夜間想定避難訓練の自治会協力	地元自治会に加入し、自治会の一員としてゴミ当番、老人会への出席、公園の掃除や、事業所見学の歓迎、ボランティアの受け入れ、防災訓練の参加、夏祭り等に参加しています。また、この事業所の避難訓練には、近隣の住民に積極的参加してもらい、臨場感のある訓練になっています。	今後の継続	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々への開放 緊急時の困り事に協力体制（掲示） キャラバンメイトとしての活動 老人会への参加 見守り協力機関			
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの現状報告 行事の声掛け 緊急時の協力体制のお願い 運営推進会議での相談、助言	運営推進会議は、自治会の役員、民生委員、包括支援センターなどの地域の方々を中心に、地元自治会館を借りて2カ月に一度、開催しています。会議では事業所の現状報告、独居の方の情報交換、災害時の協力体制など有益な相談・助言・話し合いが行われ、事業所の運営に役立てています。	今後の継続	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市・区の会合の出席 高齢者支援担当への情報提供 地域包括支援センターとの連携	横浜市や瀬谷区の会合に出席しています。瀬谷区のグループホーム・小規模多機能連絡会にも出席し、情報交換を行っています。連絡会主催の研修会にも参加しています。また、区の高齢者支援担当や包括支援センターとは、事業所の登録者の現状報告を行い、連携を取っています。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は、ホーム全体として、絶対に行わない日頃の指導により確認を行っている。職場の回覧などにより全体意識の向上。施錠は物騒なため夜間のみ行う。	身体拘束は、法人全体として、絶対に行わないよう、日頃の指導により確認を行っています。この事業所は、事務室から館内全体が、見通せる構造になっており、管理者は、職員が意識せずに、拘束とみなされる行為を見た時には、その場で説明するなど職場の全体意識の向上を図っています。事務室からの見守りにより、日中は玄関を開錠しています。	今後の継続
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待絶対禁止、職場内掲示やケア会議で指導 入浴時の身体検査 言葉遣いの徹底		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度などの説明 成年後見制度の資料回覧 成年後見制度のパンフ掲示や後見制度の研修会を勧めている。 事前指示の勉強会 市民後見人制度講座を受講		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は丁寧に内容説明し、納得がいくまで説明する。 スタッフもすべて理解し、説明できるように指導し、掲示している。 再教育して再確認を得る。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族からの声は、連絡ノートにより汲み取り、ご家族との話し合いをしている ケア会議で提案し、改善している 運営推進委員会へ反映	ご家族からの声は、「通い」「訪問」の際の連絡ノートにより汲み取り、ご家族との話し合いを行い、利用者のケアに反映させています。独居の利用者とは、ご家族と電話連絡を取ると共に、ご家族が利用者の自宅に立ち寄る日や事業所に来所する際を活用して、意見を聞く機会にしています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のケア会議での意見交換や、スタッフの声を反映している。 毎日ミニカンファレンスを行っている（1時間程） スタッフからの議題の提供、2ヶ月に1回の懇親会 代表との面接相談は随時	毎月のケア会議での意見交換や毎日のミニカンファレンスでスタッフの意見・提案を聞く機会にしています。スタッフからも積極的に議題の提供があります。2ヶ月に1回懇談会を開催し、スタッフ間のコミュニケーションは充分取れています。スタッフからの要望があれば随時、法人代表との面談・相談も行える体制になっています。	今後の継続
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	昇給・資格手当・夜勤手当 年末年始奨励金支給 夏冬賞与・健康診断（年2回夏冬休み）		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	小規模多機能型施設グループ連絡会の加入 他関連ホームへの実習 職場内研修 研修会、講演会へ積極的参加を勧めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	連絡会のつながり良好関係 情報交換 連絡会参加		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	個々の要望をできるだけ叶える 困っている事、不安な事を本人と話したり、様子観察していく中から察知し、本人との関係を作っていく		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の労を労い、家族の困っている事、要望に耳を傾ける機会を作る 来訪時や電話でも話せる環境、関係作りを行っている 福祉資源の提供		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の希望する内容をしっかり捉えて、何を求めているのか見極め、的確なケアに繋げている。 相談役、他の福祉資源の提供。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族的家庭的な暮らしの中で、人生の先輩として色々な事を教わったり聞いたりして、家族同様の雰囲気作りを行っている。 まず本人に寄り添う。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とは何でも話せる環境を作り、家族関係の大切さを支援していく。 家族の一員として、一緒に支えあっていく。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きたい所、やりたい事を見極めて叶えてあげる。 友人らとの関係を歓迎する。	自宅での生活が、これまでと変わらぬよう支援しています。昔、好きだったおはぎを作ったり、近場のお肉屋でコロッケを買ったりして、昔話の題材にしたりして工夫しています。友達の来所は、随時歓迎しています。近所に昔ながらの八百屋・魚屋もあり、利用者と買い物に出かけることもあります	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テーブルの席を定期的に交換し、誰とでも交流できて一緒に散歩したり趣味やゲームをしたりできるように交流の場を作る。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院したら、お見舞いやご家族へ電話で様子を伺い、いつでも相談にのる事を話しておく。 他施設への訪問。 終了後も家族に近況を聞いたりする。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の思いやしたい事を、日常の話や行いから捉える。 C-1-2シートから本人の思いや希望を把握し、日頃の生活活動を知り在宅時の生活様子を本人家族から聞き、本人主体のケアプランを作成する。	利用者が登録される段階で、センター方式のC-1-2シートを活用して、本人の思いや希望を把握し、ご家族からも日頃の生活活動・様子を聞き、本人の意向を反映した介護計画書を作成しています。会話を通して意向を直接聞ける利用者も多いので、日頃の会話からも思いを汲み取っています。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族から生活暦、馴染みの場所、友人をセンター方式のシートを埋めつつ把握する。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	様子観察（行動・言動） ケアプラン経過記録 日常生活の話、言葉の観察 家族からの話を知る。 B-1、B-2シートでなじみをさぐる。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃の支援の中で、アセスメント・ケアプラン・モニタリングを、様子観察・経過記録を通じてカンファレンスを行い、家族への声も頂き、プランを作成する。 本人主体のケアプラン作成。	日頃の支援の中で様子観察・経過記録を行い、毎月のモニタリングに繋がっています。通常6か月に一度の介護計画書の見直しを行いますが、その際、最終案をご家族に提示し、ご家族からの意見を考慮した上で、介護計画を作成します。本人主体の介護計画をケアマネジャーは、常に志向しています。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	経過記録から気づき、変化を知る。ADL・課題シートをアセスメントシートに使用。月1～2回 ケース会議。 ミニカンファレンスは毎日。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の希望、家族要望にできるだけ支援できるよう、多機能的に取り組んでいる。 行政・医療・買物・ドライブなど 家族相談に応じ取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事参加 コミスク・公園利用 絵画ボランティア・書道ボランティア		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の希望で、かかりつけ医との連絡・情報交換。 夜間緊急時の支援を受ける。	従来のかかりつけ医のままの利用者がほとんどで、ご家族対応で通院していますが、ご家族の要請があれば、かかりつけ医との連絡・情報交換の支援をしています。法人の看護師が、週3回来て健康管理を行っています。歯科医は、利用者の自宅に必要な応じて往診しています。協力病院もあり、夜間や緊急時には活用しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関の担当医師・看護師に相談し緊急時対応する。 主治医への相談。 協力医療域間の担当医師・看護師への相談。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関の担当医師・看護師・相談員とは、情報交換を密に行い、退院後の指導を受けている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	往診医・主治医との協力。 医療機関とは、いつも情報交換を行い、重度化、終期末のあり方などについて、本人や家族とは十分に話し合い、共有し支援を行う。	往診医・主治医とは情報交換を行い、重度化・終末期のあり方については、本人やご家族と十分に話し合い、できること、できないことを伝え、共有しながら支援を行っています。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアル作成・確認 救急法の訓練 応急手当の訓練 AEDの使用法		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練 年2回（昼夜） 地域緊急連絡の方法 避難用の毛布 救急箱の設置 地域住民参加訓練 災害時の備蓄品用意	避難訓練は、年2回（日中・夜間対応）消防署の指導と近隣住民の協力を得て、実践的な訓練を行っています。自治会の防災訓練にも参加すると共に地域との緊急連絡網も整備しています。避難用の毛布・救急箱の設置、災害時の備蓄品なども準備しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格を尊重し、その人の能力の発揮を促し、人格を損ねるような行動・言動を慎む。 個人情報の守秘義務。 家族など個人情報の取り扱い厳守。	利用者個々の人格を尊重し、その人の能力の発揮を促し、人格を損ねるような行動・言動を慎んでいます。実習生を受け入れている為、利用者とのやり取りの際等、職員は模範を示すよう努め、スタッフにとっても反省の機会にしています。個人情報の守秘義務は、常々注意を行い、徹底しています。	今後の継続	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	レクリエーション参加など本人がやる・やらないを決めるが、本人が参加できるように声掛けをして促し、その工夫をする。 一人一人のペース尊重。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人が希望しない事は強制しない。 散歩などの時、行きたくない時は次の機会を作る。 買物も本人同伴で行う。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	おしゃれを勧める。 理・美容への勧め。 その人に合った髪型 着替えもご本人に選んでもらう。 鏡を見て頂く。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	好みを聞き、近づくように献立をたてる。 調理、盛り付けの手伝い 食事準備、配膳下膳を自立支援する。 おいしく食べる。	食事のメニューは順番に1カ月単位で利用者の好みを聞きながら作成しています。自立度の高い利用者が多く、調理・盛り付けのお手伝いや、配膳・下膳をお願いしています。リビングで利用者全員とスタッフが席を並べ、会話を楽しみながら食事をしています。年に3、4回は、お寿司・ファミリーレストランへ外食に行く機会を設けています。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日1400Kcal～1500Kcal 塩分控えめ 水分摂取の声掛け 栄養は一日全体として捉える。 糖分摂取・塩分摂取見守り		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアの支援 義歯の清掃・殺菌（ポリデント） 歯科医の在宅往診・定期健診		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄行動の自立支援、本人の排泄パターンを知り、それによって声かけの機会を見つける。 SOSの早期発見。 リハビリパンツの使用はあまり勧めない。 自信の回復。	利用者の排泄パターンに基づき、声かけをしたり、利用者の様子・しぐさを観察して早めにトイレに誘導するなど、トイレでの排泄を心がけています。リハビリパンツの使用は、できるだけ避け、布パンツにパットを使用し、利用者の自信回復に繋げ、排泄行動の自立に結び付くよう支援しています。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄時チェックし、量をデータに取る。 排便が3日無い時は運動を工夫。 野菜果物、水分摂取を勧める。 家族、Drに報告、相談。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	本人の意思を確認してからの入浴とし、都合に応じ順番を前後する。 無理強いせず、拒否の時は少し時間をおき、声を掛ける。 本人の希望を聞き、スタッフの変更あり。	入浴日を週3回として、本人の意思を確認してからの入浴とし、都合に応じて順番を変えるなど、柔軟に対応しています。無理強い避け、拒否の際は、少し時間を置いて声を掛けています。本人の希望があれば、スタッフを変える対応もしています。季節感を味わえるよう菖蒲湯・ゆず湯を使用し、入浴を楽しめる入浴支援に努めています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝の勧め（下肢の浮揚防止） 就寝・起床もゆったりと、本人の希望を支持している。 夜間不眠時は少し会話をしたり、水分を摂ったりデータをとる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬確認 個々の用法量、副作用や変更があった時は記録し必読する。 薬は手渡し、服用済むまで見守りをする。二人体制で確認する。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の好み、楽しみを把握し、無理強いはいしない。 畑仕事が好きな人は、好きな時に外に出て手入れしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や外気浴は日課として行う。 買物ツアーや喫茶店などの希望があれば、出掛けている。 気分転換、社会性の保持	気分転換を兼ねて、散歩や外気浴は日課として行っています。庭の片隅にある野菜畑（里イモ・オクラなど）や緑のカーテンのへちまの水やり等も行っています。社会性の保持の観点から、買物ツアーや喫茶店へ希望があれば出かけています。桜の花見や、同法人で行う「流しソーメン」への参加は利用者の楽しみの外出行事となっています。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物ツアーや外食会では、できる範囲でご自身に行ってもらようよう支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	書中お見舞いや、年賀状など手作りしている。家族からの電話は本人の喜びなので、支援を大事にしている。家族への絵手紙作り。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温・照明・においに配慮。 トイレ・洗面所は一日数回清掃。 季節の花、歳時記で季節感を味わっていただく。 ちぎり絵などで季節を知る。	室温・照明・臭気には、注意を払っています。特にトイレは、リビングと接しており、一日に数回掃除・消毒して清潔を保っています。季節感を出す飾り付け（ちぎり絵）や、利用者の作品（習字・絵）などが賑やかに飾られています。リビングの窓を覆うへちまの緑のカーテンは、リビング清涼感を醸し出し居心地良く過ごせるよう工夫がされています。	今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ベンチやソファで話をしたり、気の合う方同士、隣に座って話したりする。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	その人の使い慣れた寝具や枕、タオルなどで、工夫している。 居心地の良い環境作りを心がけている。	現在ロングステイの利用者はいませんが、「泊り」の利用者には、使い慣れた寝具や枕、タオルケットを持ち込んで頂き、少しでも本人の居心地良い環境作りを心がけています。シーツ類は、「泊り」の都度洗濯をした清潔なシーツに替え、気持ち良く過ごせるよう配慮しています。	今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー、手すり、ドアは引き戸、床を滑り止め。履物はかかとのある物。 個々の力を発揮させるよう、調理の手伝い、配膳・下膳の自立支援を、行っている。		

目 標 達 成 計 画

事業所

小規模多機能型居宅介護
六丁目のつどい

作成日

2014年10月20日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における 問題点、課題	目 標	目標達成に向けた 具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	1, 2	地域の行事、自治会の 行事、役割により交流 し、地域の方々との 繋がりをより一層深め たい。	自治会の行事、役割の 協力。 老人会等の会合に多く 参加していく。	老人会等に参加し、皆 さんの相談に耳を傾け る。 福祉資源を提供する。	1年
2	1, 10	家族等の意見、要望、 利用者の在宅生活状況 を知る。	家族等のふれあい、交 流を一層深めていく。	家族と話し合える機会 をつくる。 運営推進委員会。	1年

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。